

III 地球に良いこと^もしよう

1 グリーンエネルギー技術の開発支援による低炭素社会の実現

現状と課題

人口急増と産業活動の活発化により、地球環境の悪化とエネルギー需要の増大が懸念されています。兵庫県の自然エネルギー自給率は全国 40 位といわれています。

環境保護の取り組みや新・省エネルギーの技術開発が進められ、増大する需要をビジネスチャンスととらえる産業・企業が増えつつあります。

多面的なサイドからの環境対策が非常に重要になっています。

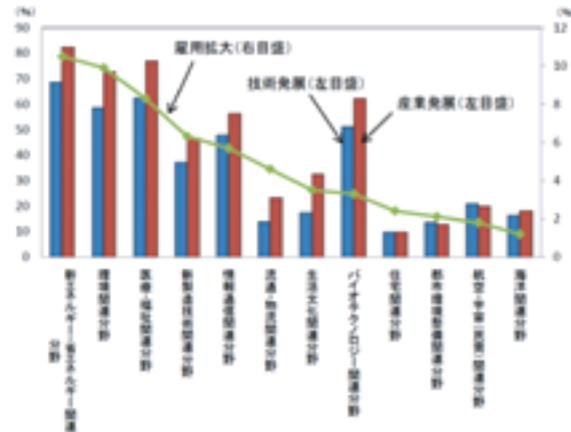


政策

- 次期環境率先行動計画の着実な実施
- 木質バイオマス施設建設をハード・ソフト両面から支援（チップボイラーバイオガス施設導入支援）
- CO₂ みえる化事業の実施
- 自然エネルギーを有望な資源と位置づけ技術開発を強力支援
- 間伐材林地残材の有効利用（燃料化、家畜敷材化、バイオエタノールなど）
- 環境学習・教育の総合的推進
- メガワット級ソーラー発電施設の整備
- 省エネ家電や省エネ行動等の普及促進
- 広域的なリサイクル拠点の整備



●今後の成長が期待される産業分野



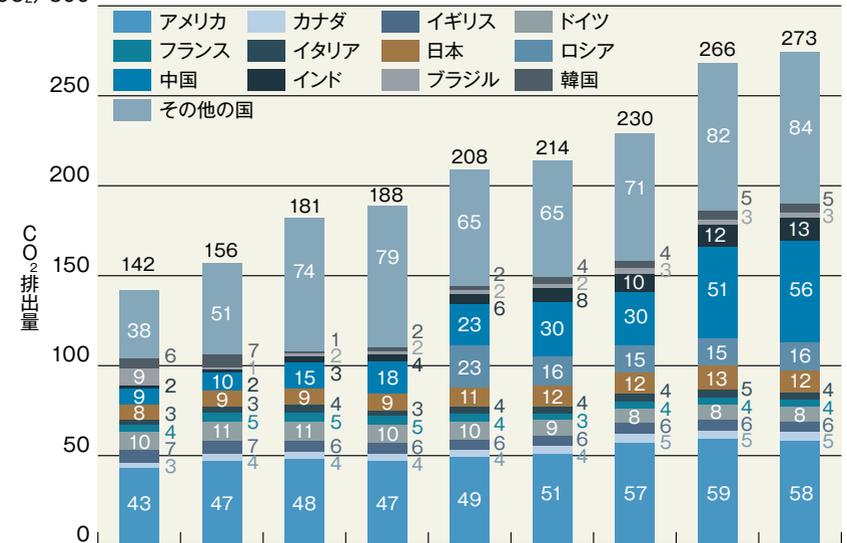
▲環境学習の推進

資料出所 (独) 労働政策研究・研修機構「今後の産業動向と雇用のあり方に関する調査」(2010年)

注：技術発展は、今後、発展すると見通される技術の分野として当該分野をあげた企業割合。産業発展は、今後、成長が期待できる産業の分野として当該分野をあげた企業割合。雇用拡大は、今後、雇用が拡大すると期待される雇用の分野として当該分野をあげた企業割合。

●世界の CO₂ 排出量の推移

(億トンCO₂) 300



(注) 四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。
ロシアについては1990年以降の排出量を記載。1990年以前については、その他の国として集計
(資料：電機事業連合会「原子力・エネルギー図面集 2010 2-4」)

2 木質バイオマスの推進

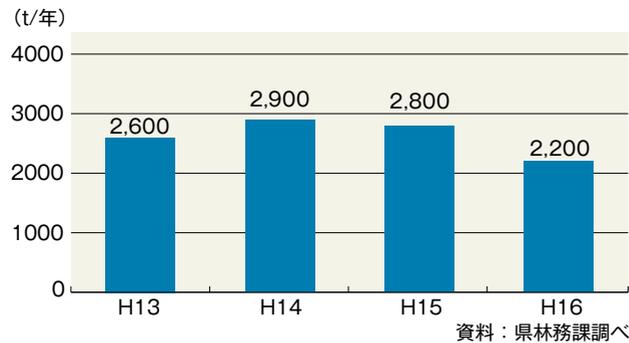
現状と課題

化石燃料の限界が見える中で、自然に優しいエネルギー開発が問われています。木材を活用したエネルギーの創出が大切です。

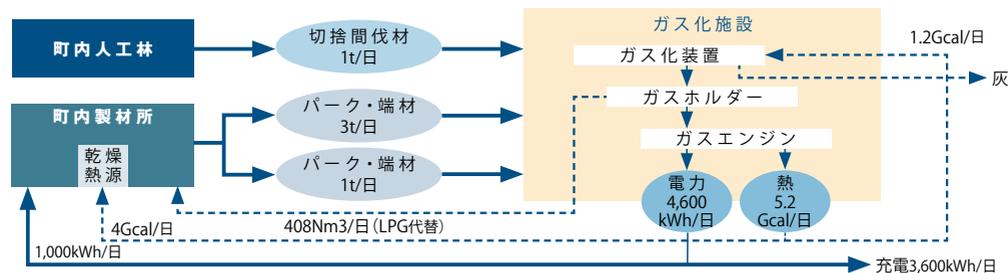
政策

- 木の多様な利用促進（建築材、集成材、燃料用、エタノール、電気化、家畜敷材）
- 化石燃料の代替エネルギーとして木材を活用（チップ、ペレット、エタノール等）
- 先導的なバイオマス利活用の取り組みを育成
- バイオマス利活用の情報提供など普及啓発

●木質バイオマスエネルギー利用量の推移



●木質バイオマス利活用（ペレット製造販売）の事業フロー



▲チップボイラー



▲生チップ



3 有害鳥獣の適正管理

現状と課題

シカなど有害鳥獣の被害は、本県では、21年度8億4千万円、シカだけで4億3千3百万円との統計があります。
捕獲対策と共に共生による適正管理が急がれます。

●野生動物による農林業被害面積 (ha/年)		
現状 (H16)	中間 (H22)	目標 (H27)
595	450	300

●シカの生息状況の推定と将来予測			
区分	これまでの推定方法		新たな推定方法 (90%信頼区間)
	本州部地域	淡路地域	
基礎データ	糞塊密度調査 出猟カレンダー調査	糞塊密度調査 出猟カレンダー調査	同左
県平均目撃効率 (H20)	1.76	1.55	同左
推定自然増加頭数	推定なし		21,507頭 (16,682～36,288頭)
		推定なし	541頭 (233～1,726頭)
推定自然増加率	推定なし		15.0% (8.5～26.9%)
		推定なし	12.8% (5.5～26.4%)
推定固体数	4万2千頭～6万頭		143,812頭 (63,063～414,707頭)
		千3百頭～2千4百頭	4,209頭 (1,690頭～15,688頭)
目標水準維持捕獲頭数	推定なし		8,652頭 (6,691～14,311頭)
		推定なし	197頭 (119～467頭)
推定頻度	特定計画変更時		毎年度
捕獲目標頭数の設定	特定計画変更時		目撃効率により翌年度重要施策作成時



▲シカ肉レストラン



▲防護柵の設置

政策

- 鳥獣被害の半減化と共済制度の創設
- シカ柵など防護柵（金網柵・電気柵）の増設支援
- シカ3万頭捕獲対策の推進
- シカ肉・皮の流通体制の確立による有効利用と狩猟関連法令の改正
- シカ肉貯蔵技術の確立と販売経路を整備し、食品利用を推進（燻製、コロッケ、カレー、ペットフードなど）
- 奥地の広葉樹林造成、里山の混交林化、バッファゾーンの整備
- イノシシ、アライグマ、クマ、サル、ヌートリアなどの野生動物の適正管理
- 絶滅危惧動物の保護管理の徹底

●兵庫県内におけるシカ捕獲数の推移

